

若年者の結婚意思決定の研究(2)

—社会経済的地位と結婚意欲が結婚意思決定へと与える影響—

東京大学 三輪 哲

1. 目的・方法

結婚の意思決定のプロセスと、それを規定するメカニズムはいかなるものなのか。本報告では、これらの問いに対し、日本の若年者の意識調査データを用いて、計量的にアプローチする。

従来、結婚を促す、あるいは妨げる要因として、社会経済的地位や結婚意欲、あるいは周囲の人間関係などが指摘され、広く社会科学の分野横断的に実証研究が展開されてきた(阿藤ほか編 2011; 樋口・岩田編 1999; 佐藤ほか編 2010)。しかしながら、それらの多くは、結婚のイベント生起やタイミングへの影響をみるのみで、結婚に至る意思決定プロセスへせまるという視点を欠いている。交際の継続や、自分から結婚の意思決定をしたのかそれとも相手が先に決定したのかなど、詳細なプロセスについての知見は提供していない。

そこで本稿では、結婚への意思決定について若年者の考えの詳細とその変化をたどることのできる貴重な調査データを利用して、上述の未踏の課題へととりくむ。分析では、意思決定の段階を分け、交際しているカップルがどの段階で社会経済的あるいは意識的要因に影響を受けて結婚が近づいたり、遠ざかっていくのかを検討する。そのうえで、結婚を決めるにあたっての理由をもとに、若年者の意思決定へ至るいわば「思考回路」をも読み解くことを試みる。

データとして、内閣府経済社会総合研究所が2016年に実施した「結婚の意思決定に関する意識調査」の個票を使用する。意思決定の段階を考慮するために、Mare(1980)の提唱したトランジションモデルを適用する。加えて、非線形主成分分析により、結婚理由の対応関係をみる。

2. 結果・結論

結婚に正の影響を及ぼすものとして、男性側の社会経済的属性の高さや結婚意欲の強さ、そして交際期間の長さや居住地の近さがある。逆に負の影響を及ぼすものとしては、周囲の人間関係で異性の多さや結婚している知人の多さをあげることができる。ただし、交際から結婚の意思決定に至る段階を区別して検討したところ、人間関係的な環境は交際継続に対して、交際している二人それぞれの結婚意欲と男性側の社会経済的属性が結婚の意思決定に対して、効果をもつことが明らかとなった。

結婚にかかわる理由の対応から描かれる空間的付置パターンからみえた系統性は、3点に整理できる。第1には、構造に男女差がみられることである。第2に、年齢や婚期などの結婚の規範が反映している結果がみえることである。それから第3に、仕事にかかわる理由は、一貫して対応関係がよかったことである。

結婚の意思決定に着目した本稿では、男性の社会経済的地位の低さが結婚の妨げになっていることと、結婚意欲が弱ければ結婚の決定には至らないことがわかった。結婚意欲が弱いのが、仕事の不安定さや経済的な問題であれば、その解消が結婚意思決定につながる可能性があることもまた見出された。

文献

阿藤誠ほか編(2011)『少子化時代の家族変容』東京大学出版会。

樋口美雄・岩田正美編(1999)『パネルデータからみた現代女性』東洋経済新報社。

Mare, R. D. (1980) "Social Background and School Continuation Decisions," *Journal of the American Statistical Association* 75: 295-305.

佐藤博樹・永井暁子・三輪哲編(2010)『結婚の壁—非婚・晩婚の構造—』勁草書房。